

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホーム ベにばら(ユニット1)		
所在地	雨竜郡秩父別町1542番地33		
自己評価作成日	平成26年8月29日	評価結果市町村受理日	平成26年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400013-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で、機能訓練に繋がるレクリエーションに取り組んでいる。2ユニットの特性を生かし、月に1回のペースで合同レクリエーションを開催し、ユニット対抗で競い合う事で、個々のやる気にも繋がっている。また、認知ディの利用者との交流もあり、季節にしか味わえない行事、たとえば、春には、桜見物、ドライブに出かけ、菜の花・ひまわり見物など気分転換を支援し、楽しさを提供している。そして、ボランティアの方々の協力を頂き夏祭り、12月には、餅つきを行い交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部に位置し、近くには商店、温泉、役場、消防署などがあり居住環境に恵まれている。当法人は、グループホーム、介護付有料老人ホーム等の事業所を運営し、事業所間で人事交流を実施して、蓄積されたノウハウをケアに活かし、専門性の高いケアは地域の信頼を得ている。利用者は地域のお祭り、敬老会などの地域行事に参加し、べにばら夏祭りなどの事業所の行事には、ボランティア、地域住民が参加し、小学校、保育園との交流など相互に交流している。居間は広く、居室は居間に面して開放感があり、居間ではテレビ体操、ユニット合同でレクリエーションなどを行って、利用者同士の交流と機能訓練に繋げている。グループホームだよりで利用者の様子を家族に知らせ、家族アンケート等で要望を把握して、運営に反映させている。又、今年度から「べにばらだより」を発行し、地域住民に配布して認知症に対する理解を深める取組をしている。理事長は各事業所を巡回し、利用者の声、職員の意見・要望を把握してサービス向上に活かしている。職員は明るく親身に利用者に対応し、温かい家庭的な雰囲気の中で、日常の生活が出来るよう様々な視点から気配りしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱え理念を共有し、日々のケアの中で実践に繋げている。	職員全員で協議し、事業所理念「安心して生活できるように真心を持って寄り添う介護」を作成し、毎朝唱和して日々確認し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の機会を作るよう働き掛けている。事業所独自の行事にも参加して頂き、交流を持っている。	町内会に加入し、地域の一員として、夏祭り、敬老会などでは、出店や町民、家族等に前庭を開放して交流し、お祭りを楽しんでいる。敬老会や事業所のべにばら祭りには、前庭で焼き肉等を行い地域、家族・利用者一体となって交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流等を通じて認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの評価の取り組みについて報告している。議題を上げて意見を出して頂けるよう取り組んでいる。	年6回開催し、利用者代表、家族、町内会長、民生委員、役場担当者などが出席して、活動状況をはじめ運営状況を中心に報告話し合い、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。時には、職員から「薬の飲み方の工夫」等の実践発表を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、現在の地域の現状などを提供して頂き、協力関係をj得ている。	役場担当者に事業所の運営について報告し、通知、通達等制度改正、利用者の状況等について、情報交換して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会において、理解を深めている。防犯、事故防止の為、止む無く施錠やベッド柵を使用することはあるが、それ以外では身体拘束をしないよう取り組んでいる。	定例的に内部研修を行うと共に、身体拘束・虐待防止の自己評価を6ヶ月ごとに全職員に実施して、拘束のないケアに取り組んでいる。防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会において虐待について学び、意識しケアを行っている。又、半年毎に身体拘束・虐待防止の自己評価を全スタッフに行い、自己のケアの見直し虐待防止に努めている。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて学ぶ機会を設け理解・実践に活用できるよう努めている。今後は、定期的に学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、家族や利用者の不安や疑問が無いか伺うようにして、理解や納得を頂けるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族へのアンケートを実施し意見や要望を運営に反映させている。又、面会時などいつでも意見や要望を表せるよう努めている。	利用者とは日常の会話から、家族とは来訪時の会話、毎年アンケートを行って意見要望等を把握して、ユニット会議、全体会議で検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティング等、提案の機会は設けられている。	個人面談、ユニット会議、全体会議で意見・要望を検討し運営に反映させている。運営者と職員間は、日常の会話などから常に情報が共有されている。時には理事長自から、事業所を巡回し利用者、職員の声など現状把握に心がけている。業務の流れについて職員の意見を反映させ改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自からの要望・意見を聞く機会を設け、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けてくれている。又、研修報告を基に勉強会を行うなどトレーニングに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会以外の交流の場は少ない。また、事業所内であっても他部署との交流は少ない。今後、交流する機会を作っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や求める事を傾聴し、受け止める様、取り組んでいる。本人の安心を確保できるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や、不安や負担を軽減できるよう、まずは、話を聞かせて頂き、家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で、本人の思い家族の思いを見極め、現状にあったサービスを考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を一緒に行うことで教えて頂いたりと共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い、必要に応じ協力を求めたり、消耗品購入を依頼し面会の機会を設けるなど共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人等の面会は自由に来るようにしている。馴染みのお店や美容室を利用出来るよう支援している。	美容室には、希望によりスタッフが付き添い送迎している。理髪師は事業所に出張して来る。デイサービスに来ている知人、友人との交流が出来るよう個々人の事情に配慮して、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性などを把握し、普段の生活の中やレクリエーション、イベント時など関わり合えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の状態や近況等を電話やお会いした時にお聞きし、相談援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	来訪時やケアプラン作成時には、家族に希望・意向を伺っている。また、日々の生活の中で利用者の意向を伺い本人本位に検討している。	日常生活の中での開放感のあるくつろぎの時間や、散歩、入浴時等を積極的に利用して、思いや意向を把握して、業務日誌、ケース記録に記録し職員で共有して、意向や希望に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話から生活歴を聞いたり、面談時に家族から聞くなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で心身状態、有する力等の現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人希望や家族の要望を取り入れ、本人の心身状態に合った対応が出来るよう、全スタッフと話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者、家族の意向を把握して、全体会議で意見を集約し、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に介護計画を作成して家族に説明し確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づきケアを行い、日々の様子やケアの実践を記録し、スタッフ間で情報を共有し実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応して、家族関係者と話し合いながら、支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで、町内の方々がダンスや流しそうめん、餅つきに来訪され、楽しむことができるよう支援している。今後も新たな地域資源も取り入れたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人・家族の希望する医療機関を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。家族の依頼により、通院支援を行っている。病状により家族が同行することもある。受診結果については、その都度、家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の症状、体調に変化があった場合、職場内の看護師や連携先の看護師に報告・相談し適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換・相談体制を取り、早期退院に向けて努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面を用い説明し方針を共有している。	契約時に指針に基づき利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化が認められた時には家族に説明し方針を共有して、医師と連携し対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の救命講習の受講や、緊急時の対応マニュアルの活用、勉強会等で実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、全職員が対応できるように取り組んでいる。	年2回、マニュアルに基づき、消防署の指導を受け、運営推進会議に合わせて、消火、避難訓練を実施している。地域住民へ避難訓練参加協力を呼びかけているが、協力を得るまでには至っていない。	日頃から、町内会、地域住民に対して事業所の見学を兼ねて、認知症についての職員による講話等を行うなどして協力体制を構築すること。更に、災害時、通信網が破壊されることを想定して、火災、地震等の災害別一時避難場所を指定し、家族等に通知し共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、配慮ある言葉かけや対応に努めている。	トイレ誘導時の声かけなど尊厳やプライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。特に、失禁した場合等には尊厳を損ねない心配りに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思・要望をその都度確認し、自己決定ができるような対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を着用して頂いたり、好みの物を身につけられるよう支援している。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には下ごしらえや片付けを職員と一緒にしてもらっている。	メニューについては、基本的に365日決めているが、季節の野菜を取り入れたり季節感を大切にしたい食事作りに取り組んでいる。下ごしらえなどは、希望者皆さんで行っている。誕生日には希望を聴いて、好みの食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や食事形態に配慮している。水分量は記録し、確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。本人ができない場合は介助している。夕食後は義歯を洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや兆候を把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。	個々人の排泄パターンを把握して、職員が共有し適時、声えかけ誘導し、排泄の自立に努めているが失禁したときは、プライバシーを傷つけないよう気配りし、他に気づかれないようシャワーを使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやオリーブオイルで腸内環境を整えるとともに、水分補給と運動を促し予防に取り組んでいる。便秘時には下剤の調節をし、無理なく排泄出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意思表示ができる方は入浴日を決めて頂いているが、その他の方はその日の体調や入浴間隔をみて入浴して頂いている。入浴時間が限られ、必ずしも本人の意向に沿っているとは言えない。	基本的には、週2・3回入浴できる体制は出来ているが、その日の体調、希望によって、臨機応変に対応している。入浴可能時間の関係もあり、希望や健康状態を考慮して適宜対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や休む意思を確認し、自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握や理解をし、正しく服用できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下ごしらえ、片付け等役割を持って頂けるようにしている。又、レクリエーションや外出等で気分転換ができるよう支援している。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩など希望に応じ対応している。又、季節を感じられるようドライブの支援もしているが、受診等で事業所車両の空きがない場合が多く日常的には行えていない。	近隣の散歩は、個々の健康状態を見て希望や天候により適宜行っている。遠出のドライブは、春の桜、夏の海、秋の紅葉狩りなど定例的に実施、その他の、天候により利用者の健康状況、希望、その他の状況を把握して、適宜実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、家族と相談した上で小遣い程度所持し、外出時等に買物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。職員が代行する場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心がけ室温・明るさに配慮している。季節行事の飾り付けはしているがそれ以外では季節を感じられるものは少ない。	居間などの共用空間は明るく、壁には小学生からの手紙・外出時の写真などが貼られ、利用者は長いすなどに座ってテレビを見たり、会話をしている。新しく入居した利用者が、一日も早く馴染み、落ち着いた日常生活が、出来るよう全職員が、連携し協力して取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性などを考慮し、座る場所などの工夫をしている。一人でゆっくりと過ごせる場所も提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などを持参して頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は、整理、整頓され、思い思いの家具、ベッドを配置して、壁には絵、思い出の家族写真等を飾り、それぞれが、落ち着いて居心地良く、生活出来るよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやタッチアップなどを設置し安全に行動できる工夫やトイレなどの表示を大きくわかりやすくする工夫をしている。		